



平成 24 年 3 月 5 日(日) かわいらしいろうソクをいっぱいつくったよ 編

3 月 5 日(月)、上町ほっとステーションにおいて、昨年の東日本大震災の犠牲者の方々を供養するためのろうソクづくりがありました。あの震災からちょうど 1 年がたち、各地で追悼の行事が行われましたが、その追悼の行事の際に灯されるろうソクづくりでした。

藤里町宝昌寺住職で、秋田県北地区ビバーラ秋田の会長である新川泰道さんの呼び掛けに応じて、今回のろうソクづくりのお手伝いが行われました。午後 1 時頃から作業が始まり、クレヨンで色付けしたかわいらしいろうソクをたくさん作りました。参加者はすみれ会会員 5 名、ソロプチミスト・一般会員 15 名など約 20 名でした。

ろうソクづくりの手順ですが、まず、お寺での使用済みのろうソクのろうを溶かします。それに赤・青・緑・黄の色をつけ、次に、みんながも持ち寄ったジャムやヨーグルトなどの空き瓶に芯を据え、先ほどの色をつけたろうを流し込みます。それが固まると、さらに違う色を重ねていきます。そして、かわいらしい、三色の色鮮やかなろうソクのできあがりです。約 300 本近くできました。

3 月 10 日と 11 日の夜に、かの地で灯されるであろうこのろうソクによって、被災者の方々がほんの少しでも癒されますように、という思いを込めたろうソクとなりました。

すみれ会は、これまでものしろまち灯りに参加してきたことから、ろうソク作りは手慣れたものでしたが、多くの参加者の方々は今回が初めてでした。配色を考えながら、おしゃべりをしながらの、童心に返った楽しい作業のひとつとなりました。作業の終わりには、記念にできたての手作りろうソクの中から好みのものを持ち帰ってもいいということになり、みなさん大喜びでお好みのものを選んで散会となりました。

今回のろうソクは、その後、岩手県大槌町と山田町に送られ、東日本大震災で犠牲になられた方々の追悼、慰霊の行事に用いられました。手作りろうソクとともに、ろうソクを据えるためのスギ灯りも送られました。

このスギ灯りの上で手作りろうソクが温かな灯りを灯して、現地で被災された方々を少しでも慰めるものになったらいいね、と話し合いました。

私事になりますが、昨年 3 月 11 日、仙台の病院に入院していた息子の退院を手伝うために名取市に滞在していて震



短期間の呼びかけにも関わらず、たくさんの方が参加してくださいました。



木製芯立てをはじめ、NW のこれまでのろうソクづくりのノウハウが生きます。色を重ねていくとカラフルなろうソクになりました。



最後に芯の長さを揃えて完成です。被災地の皆さんに喜んでいただけたとよいですね。

**こんなことあったよ!** のしろ白神ネットワークの活動レポート

災にあいました。ちょうど買い物をしていたところでしたが、今までに聞いたことのない地鳴りと経験したことのない激しい揺れに、このショッピングモールの建物が崩れればおしまいだ、と恐ろしさに震えました。周りには泣き叫ぶ人あり、われ先に逃げ出そうとする人ありで、エスカレーター前の広いホールは混乱し、言い知れぬ恐怖を覚えました。

その後も、強い余震が頻繁にあり、電気も水も火もなく、道路の信号機にさえ灯りのない暗く寒い夜迎え、加えて能代と連絡がとれないなど、周りがどのような状況なのかわからず、ただ不安な時間を過ごしたことを覚えています。

翌日、買い出しの行列に1時間近く並びました。その時には普段おつき合いのない、ご近所の農家の方に貴重な井戸水やお菓子を分けていただいたり、コンビニの店員さんには、「薬を飲む水がほしい」と話すと、在庫が乏しいなかで、500ccのペットボトル2本を探し出していただくなど、いろいろな方に助けられました。あの大変な災難のとき、誰もが余裕などないはずでしたが、そのような中で、周りの人々からいただいた優しさと思いやりは忘れられません。

あの日から1年がたちました。あの大地震と大津波、原発事故で被災されて、今現在も辛い思いをしている人たちが数多くいることを決して忘れないでいたい、と気持ちを新たにしたロウソクづくりの日でした。

文：相澤 レイ子

東日本大震災一周忌法要に参加して

去る3月5日(翌日には北秋田市でも開催)に能代市上町ほっとステーションにて作成された追悼のキャンドル約400個を携え、東日本大震災からちょうど一年となる3月11日に行われる一周忌法要に参加してまいりました。

10日、県内各地より大槌町吉里吉里・吉祥寺様に集合、午後4時からの震災犠牲者一周忌・速夜法要に参加、同時進行で山門前の石段に「祈 3.11」の文字をキャンドルで描きながら設置。事前のキャンドル作りに参加された方々も徐々に見えられ、5:30キャンドルに点火、「祈 3.11」の文字が夕暮れに浮かび上がる。亡き人を思ってか、しばしの間キャンドルの灯りに見入っている方も多く見受けられた。

11日、この日は沿岸部としては珍しいほどの大雪。一年前の震災直後の雪景色が思い出される。当日到着組も含め、この日は秋田から25名の秋田県曹洞宗青年会のメンバー



大槌町吉里吉里の吉祥寺山門にキャンドル点火。



大槌町・釜石市の各地で法要。



能代で製作したろうそくを祭壇の一角に加えていただく。



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

が、午前中は吉祥寺様、江岸寺様(大槌町)、常楽寺様(釜石市)の3ヶ寺にそれぞれ分かれての法要参加となる。

江岸寺様は津波で本堂が全壊のため、プレハブの仮本堂と屋外の供養塔前の二ヶ所で同時に読経開始。400人以上の参列者があり、皆真摯に手を合わせ、厳かに犠牲者の冥福を祈った。

雪のちらつく中、法華太鼓を先頭に赤浜海岸まで40分ほど行脚、周囲の建物は津波被害で更地同然、崩れたビルに反響する鈴や太鼓の音がもの悲しさを増す。赤浜海岸での追悼行事では、あべ十全氏率いる由利本荘市ボランティア協議会の方々が準備や運営に尽力、大間ジローさん等による追悼演奏も行われ、秋田から多くの方々が関わる行事でもあった。当方のキャンドルも祭壇に加えていただく。

午後は山田町織笠・龍泉寺様での一周忌法要へ。隙間がないほど、沢山の参列者の方々がみえられた。

2時40分法要開始、2時46分のサイレンを合図に全員で黙禱。法要中、合掌を崩すことなく祈りを捧げる参列者の方々。「遠路私達のため、犠牲になった沢山のいのちのために来て下さり、どうもありがとうございました」という言葉を参列者の方からいただいた。

法要終了後、温かいおしるこを参列者の皆様に提供。同時に山門前スペースに設置したキャンドル文字「祈 3・11」に点灯。山門から見下ろす場所に夕暮れに灯るキャンドルが揺らめく。参列者も足を止めて見入っている様子。この時も、去る29日に現地にてキャンドル作りを行った方々が多くいらっやった。自らの手でキャンドルの列に加える時の思いは、如何ばかりだったろうか。法要参列者以外の通行人も、キャンドルが目にと留まり立ち寄ってくれた。

のしろ白神ネットワーク様による、秋田スギのキャンドル台を参列者におみやげとして提供、特に子どもたち人気であった。

秋田からお届けしたキャンドルに託された皆様の追悼・鎮魂の思いは、必ずや現地の方々、そして震災で犠牲となられた方々に届いたものと思われまます。

キャンドル作りにご参加いただいた皆様、ローソク・ガラスビンの提供や収集にご協力いただいた皆様、あらためて御礼申し上げます。ありがとうございました。

文：ビハーラ秋田代表・新川 泰道



山田町での法要。
山門前にろうそくを並べ、点灯。



NWのPRも。手づくりろうそくのほか、スギ灯りが参列者のおみやげになりました。



私たちにできることを長く続けていければ良いですね。